

# 松 風

## 福島県公立学校退職校長会

会長あいさつ…………… 1  
 評議員会報告…………… 2  
 論壇、令和7年度重点事項、他…………… 3  
 令和7年度役員名簿、理事会報告、他……… 4

〒960-8107 福島市浜田町4-16 富士ビル2階  
 TEL (024) 534-5411  
 FAX (024) 531-1195

### 会長あいさつ

### 設立当時の結成趣意書に思う （創立六十周年の節目に当たって）



福島県公立学校退職校長会

会長 福 士 寛 樹

福島県公立学校退職校長会が昭和四十年四月九日に結成されてから令和七年四月九日で満六十歳、無事還暦を迎えた。

本会の設立、全国連合退職校長会の一員になったのは、昭和三十九年九月、東京都退職校長会結成準備委員会から「全国連合退職校長会結成趣意書」が送付されたのがきっかけである。抜粋して紹介したい。

『戦後すでに二十年、わが教育界は、今なお混迷を続け、憂慮すべき幾多の問題が山積している。すなわち、真の日本人教育の確立、偏向教育の是正、道徳教育の振興、非行青少年の対策、社会道義の高揚、家庭教育の改善、教員養成制度の改革等、いずれも速やかに解決を要する問題である。』

よってわれわれは、まず各都道府県においてその地域の小・中・高校の退職校長が団結して都道府県の退職校長会を組織し、相互の親睦を図るとともに、現職校長と提携して教育振興に努力し、さらに大同団結して全国退職校長会を結成し、中正健全なる教育世論の喚起に努め、我が国教育再建の事業に寄与せんことを期するものである。

また、教育の振興を図るためには、教育界に人材を誘致することが大切である。そのため、現職教員の地位待遇の向上を図るべきはもちろんであるが、更に退職者の処遇を改善してその生活の安定を得しめることが極めて緊要である。

この会は政治的にも思想的にも中立を堅持し、如何なる政党にも思想団体にも偏することなく、永遠にその存在を続けて我が国教育の振興に寄与せんとするものである。』

趣意書には、昭和三十九年当時の我が国教育界の現状や教育の振興、恩給や年金の充実と生活安定、本会結成の目的と立ち位置など課題解決への決意が十分に伝わって共感でき、先達がこぞって入会したのもうなずける。

本会は、先達の熱き思いに応え、繋いでいかなければならない。今われわれができること、それは学校や教育行政の応援団として組織的にそして精力的にそれぞれの立場でできることを、具体的にアクションしていくことだと思ふ。学校教育現場の現状を把握するとともに小中学校長や高等学校長の意見や考えを丁寧にはきき、要望活動につなぎ、子どもたちにとって、先生方にとってよりよい魅力的な教育環境にしていくこと、県教委や市町村教委の施策や事業に協力し、課題解決への一助となるよう頑張り続けることが、人生百年時代

に相応しい持続可能な本会のあるべき姿だと思ふ。今から二年間、東北協議会の事務局を担う。東北各県と連携し、全連退はもとより、中央省庁にも意見や要望を直接具申できる機会を大切にしてまいりたい。全国的にも会員減少が喫緊の課題である。県事務局としては、これまでの取組に加え、入会者への勧誘活動を工夫したり、活動をより可視化したり、新たな学校支援策を提案したりしていきたくと考えている。県内十六支部の皆様にも、支部活動の充実と現役校長とのかかわりをさらに工夫していただくとともに、過去五年間程度に遡って未入会者への再勧誘をしていただくなどして会員の加入率向上にお取り組みいただければ幸いである。

一九二二年、ノーベル物理学賞を受賞したアインシュタインは、「意思があれば道は開ける。」と述べている。このことを胸に課題をひとつひとつ丁寧に解決し、会員の皆様とともに魅力ある持続可能な会運営に引き続き取り組んでまいりたい。

# 令和七年度 評議員会報告

- 第五十九回県大会津大会は支部の特性を活かし開催
- 役員改選により、新副会長五名、新監事三名を選任

評議員会は、令和七年四月二十五日(金)、福島市吾妻学習センターで開催された。なお、会に先立ち、研修会として福島県教育庁特別支援教育課長様より講話をいただいた。

## 一 会長あいさつ

## 二 報告

- 令和六年度事業報告について
- 令和六年度会計決算報告について
- ・一般会計、特別会計、ぬくもり基金
- ・監査報告
- (決算報告、ぬくもり基金は下記を参照)
- 慶弔関係について
- ・令和六年度高齢者叙勲三十三名(前年比四名減)
- ・令和六年度物故会員九十二名(前年度比十二名減)
- 新入会員加入勧誘予定者



評議員会の様子

- 数について
- ・小学校六十六名・中学校四十三名・高等学校十三名・特別支援学校四名、計百二十六名(前年度比十六名増)
- 新入会員の勧誘並びに事務手続きの確認について
- 広報部の活動について
- ・平成七・八年度の「松風」発行は年三回、「東北地区情報」は年一回

## 三 協議

協議のうえ、下記の項目は原案のとおり承認された。

- 令和七年度活動の重点目標(案)について
- (重点目標は三頁参照)
- ・福島県公立学校退職校長会運営ビジョン(案)
- ・福島県公立学校退職校長会デジタル化(DX)ビジョン(案)
- ・社会貢献活動推進概念図
- 令和七年度事業計画(案)について
- 令和七年度予算編成の方針(案)、会計予算(案)について(予算は左記)

- 第五十九回福島県公立学校退職校長会津大会について(案)
- ・「大会宣言」「県大会及び体験発表支部」について
- 令和七年度要望活動(案)について
- ・令和七年度教育懇談会開催要項(案)について
- 役員改選
- ・任期満了による役員改選
- 事務連絡
- ・令和七年度「寿詞・賀寿・賀詞」該当会員名簿、令和七年度高齢者叙勲該当者名簿について
- 令和七年度「支部事務の

- 「手引き」について
- 会員名簿の作成及び配付方法について
- 福島県公立学校退職校長会ホームページについて

### 令和6年度会計決算報告

収入総額	4,067,889円
内訳	
・会費	3,506,700円
・雑収入	83,294円
・繰越金	477,895円
支出総額	3,902,240円
内訳	
・会議費	498,325円
・事務費	437,047円
・事業費	1,883,628円
・会費・負担金	938,240円
・積立金	130,000円
・予備費	15,000円
差引残額	165,649円

※差引残額は次年度への繰越金とする。

### 令和7年度会計予算書

収入総額	3,667,149円
内訳	
・会費	3,421,500円
・雑収入	80,000円
・繰越金	165,649円
支出総額	3,667,149円
内訳	
・会議費	512,200円
・事務費	449,000円
・事業費	1,638,000円
・会費・負担金	930,000円
・積立金	120,000円
・予備費	17,949円
差引残額	0円

### 令和6年度ぬくもり基金決算報告

収入総額	735,216円
内訳	
・繰越金	734,918円
・利子	298円
支出総額	120,000円
・東北地区協議会助成金	60,000円
・会津大会助成金	60,000円
差引残額	615,216円

私の初任地は保原高等学校  
 学校定時制課程だった。  
 地元で採用されたことに  
 驚き、定時制課程と聞いて  
 また驚き。ここから私の  
 教員人生が始まった。  
 当時、学校では「ファック  
 ス」を用いて印刷原稿  
 を作成するか、ボールペ  
 ン原紙に直接文字を書い  
 て資料を作成していた。  
 文字があまり得意でな  
 かった私にとっては、和  
 文タイプ  
 を利用し  
 て原稿を  
 作成する  
 ことも  
 多々あつ

た。その後、異動先の学  
 校では、カセットテープ  
 に録音して原稿の記憶を  
 行う形式のワープロが一  
 台導入されたが、録音の  
 音声が入るが、せつか  
 く書いた原稿が使用でき  
 なくなることもあった。  
 次第にワープロが普及す  
 ると、私自身も専用の  
 ワープロを購入し、教材  
 作成などに活用するよう  
 なった。

論壇

教育機器等の変遷と私

副会長 坂 爪 靖 夫



県の初任者研修の研修員  
 時代には、Windows  
 搭載のパソコンが新たに導  
 入され、一太郎で原稿を作  
 成したり、ロータスで表計  
 算を行ったりすることが可  
 能になった。教育センタ  
 ー時代には、自宅にもパソコ  
 ンを設置してメールやイン  
 ターネットを利用するよう  
 になっていった。今では、家  
 庭内にパソコンだけでなく、i P a d やスマ  
 ート

フォンなどの電子機器が当  
 たり前のように存在するよ  
 うになった。  
 現在、私は私立高校で非  
 常勤講師を務めている。生  
 徒たちはタブレットを使  
 い、自由な発表や資料作  
 成、課題の提出に取り組ん  
 でいる。また、教職員も学  
 校統合ソフトを活用し、出  
 欠管理、連絡事項の取りま  
 とめ、成績管理などを行  
 い、授業では各種機器を利

用したICT教育が進め  
 られている。  
 教育機器の進歩は目覚  
 ましく、学習指導や学校  
 運営に大きな影響を与え  
 てきた。しかし、機器の  
 活用はどのような効果を  
 生み出しているのか、機  
 器を使いこなすことより  
 もむしろ機器に使われて  
 いるのではないかと心配  
 することもある。  
 長年の教師経験を通じ  
 て身につけた  
 指導方法や、  
 生徒の特性に  
 合わせた工夫  
 に満ちた授業  
 を懐かしく感

じるのは、もしかすると  
 自分が時流に対する柔軟  
 性を失ってしまった結果  
 なのかもしれないと思  
 う。本当に子供たちに  
 とってよりよい教育内容  
 や教育方法、教員をバツ  
 クアップする体制はどう  
 あるべきか、現状を把握  
 したうえで、改めて考え  
 てみるのが大切なこと  
 だと感じている。

令和七年度  
 重点目標

- 次年度の重点目標として承認された。
  - 本会が抱える諸課題の解決に向けた活動を強化する。
  - 会員減少と高齢化への対応（役職定年者と未加入会員への勧誘）
  - 学校・現役校長・教育委員会等に対する協力
  - 社会貢献活動等の奨励と活動機会の拡充
  - デジタル化（DX）の一層の推進と、広報誌「松風」・ホームページの充実
  - 要望活動のさらなる充実
  - 県小・中校長会及び高等学校長協会、県教育委員会からの要望などに応え
  - るとともに、支部間の連絡調整を強化し、学校支援事業、地域学校協働活動など、教育振興のための社会貢献活動等の充実と拡大を図るとともに、
  - 県教育委員会・福島大学等との連携により教員の魅力発信を継続する。

○ 「双葉の灯を消さない」  
 よう、被災・避難された支部・会員への支援活動を継続し、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の被災体験を風化させない活動を継続する。

○ 県大会は、開催支部の特性を踏まえ、運営や大会宣言を工夫するなど充実を図る。  
 ○ 東北地区退職校長会協議会事務局として東北各県や全連退との連携を深める。

評議員会研修会 講話  
 「本県の特別支援教育について」  
 福島県教育庁特別支援教育課長 齋藤 成子様



特別支援教育制度の  
 変化、共生社会の形成に向け  
 たインクルーシブ教育シ  
 ステムの推進、福島県の特別  
 支援教育の取組や現状等につ  
 いて、分かりやすくお話し  
 いただいた。

令和7年度 福島県公立学校退職校長会役員名簿

(令和7年4月25日現在) (敬称略)

Table with columns for roles (顧問, 会長, 副会長, 監事, 評議員) and names of members across various regions (南会津, 相馬, etc.).



《新役員紹介》 役員改選により副会長、監事が退任され、新たに副会長五名、監事三名が選任された。(敬称略)



理事会の様子

令和六年度 理事会報告 (火)、令和六年度理事会が福島市吾妻学習センターで開催され、報告事項、協議事項とも了承された。なお、会に先立ち、研修



◇監事

編集後記 令和七・八年度は、本県が東北地区退職校長会協議会事務局長を担任することになるため、「松風」を三回、「東北地区情報」を一回発行することになりました。また、諸会議等で広報紙等を配付することになりますので、各支部のご理解とご協力をお願いいたします。

次世代教育、格差解消、キャリア教育の三つの視点から健康教育を捉え直し、健康教育のパラダイムシフトへの転換、健康教育マネジメント能力の育成、健康手帳の活用などの取組を詳しく知ることができた。



講話 「ふくしまっ子の健康」 福島県教育庁健康教育課長 木幡 健様

会として福島県教育庁健康教育課長様より、講話をいただいた。